

公益社団法人日本地球惑星科学連合

第 17 回 グローバル戦略委員会

(2017 年度第 4 回グローバル戦略委員会)

開催日時： 平成 30 年 3 月 5 日（月） 午後 3 時 30 分から 5 時 30 分

開催場所： 日本地球惑星科学連合事務局 地下会議室

(東京都文京区弥生 2-4-16)

0. 第 16 回(2017 年 11/13(月))議事録確認

Item 0: Approval of Minutes/ Review of action itemsP2-5

1. 審議事項

- 1-1. 2018 年度以降の AGU/AOGS/EGU とのジョイントの推進の仕方について Suyehiro資料なし
- 1-2. AOGS との MOU の update について SuyehiroP6
- 1-3. AGU Fall Meeting での「All Japan 合同アイランド」での出展について (Kawahata)/TakahashiP7
- 1-4. AGU Fall Meeting 2019 Centennial での JpGU としてのアクション (Wallis)/SuyehiroP7
- 1-5. JpGU-AGU Joint Meeting 2020 の準備 Kimura.....資料なし
- 1-6. アジア戦略地域における国際連携の今後とアクション TakahashiP8
- 1-7. 韓国地球惑星科学連合と JpGU の今後 (Kawahata) / TakahashiP8-10
- 1-8. グローバル戦略委員会の任務の刷新について TakahashiP10

2. 報告事項

- 2-1. AGU Fall Meeting 2017 参加報告 Suyehiro.....P11-16
- 2-2. AGU FM2017 における Partner Union との交流報告 Suyehiro.....P16-17
- 2-3. オープンサイエンス関連動向－AGU「プレプリントサーバ」－ MurayamaP17-25
- 2-4. AOGS-EGU Joint Conference フィリピン大会 参加報告 MatsumotoP 26-30
- 2-5. JpGU Meeting 2018 国際対応準備状況 JpGU & Friends Area Takahashi.....P30
- 2-6. JpGU Meeting 2018 での AGU/AOGS/EGU との Joint Session について Suyehiro.....資料なし
- 2-7. グローバル戦略委員会新入会メンバーの紹介及び作業部会メンバーの委員会への入会 Takahashi.....資料なし
- 2-8. 学術会議からの報告 HaruyamaP31

委員会名簿-

前委員長	理事	木村学	東京海洋大学	○
副委員長		ウォリス サイモン	東京大学	×
	理事	日比谷 紀之	東京大学	○
	理事	西 弘嗣	東北大学	×

Acting Chair	セクションプレジデント WG 委員長	高橋 幸弘	北海道大学	○
	セクションプレジデント	蒲生 俊敬	東京大学大気海洋研究所	○
	セクションプレジデント	春山 成子	三重大学	○
	セクションプレジデント	大谷 栄治	東北大学大学院理学研究科	○
	セクションプレジデント	遠藤 一佳	東京大学	○
		木下 正高	東京大学地震研究所	○
		末広 潔	国立研究開発法人海洋研究開発機構	○
		関 華奈子	東京大学	○
		田島 文子	University of California at Irvine	×
		橘 省吾	東京大学	×
		中村 尚	東京大学先端科学技術研究センター	×
		藤本 正樹	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	
		三宅 弘恵	東京大学地震研究所	×
		村山 泰啓	国立研究開発法人情報通信研究機構	○
		齋藤 文紀	島根大学	○
		中川 貴司	国立研究開発法人海洋研究開発機構	○
		安成 哲平	北海道大学	○

	会長	川幡 穂高	東京大学	×
	前会長	津田 敏隆	京都大学	
	副会長	田近 英一	東京大学	×
	副会長	中村 正人	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	○
	副会長	古村 孝志	東京大学	×
	大会運営委員長	浜野 洋三	国立研究開発法人海洋研究開発機構	○
	WG 委員	松本 淳	首都大学東京	○
	WG 委員	久保田 尚之	北海道大学大学院理学研究院	○ Zoom
	WG 委員	津川 卓也	国立研究開発法人情報通信研究機構	×

0. 前回議事録確認

Global Strategy Com Meeting #16

Date: 2017 November 13, Monday 12:30-14:45

Room: The University of Tokyo, Faculty of Science Building 1, Rm 839,
7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo

Attendee:

Global Strategy Committee (GSC) members: Gaku Kimura (Chair),

Simon Wallis (Vice Chair), Toshitaka Gamo, Shigeko Haruyama, Toshiyuki Hibiya, Masataka Kinoshita, Hiroe Miyake, Yasuhiro Murayama, Hiroshi Nishi, Eiji Ohtani (ZOOM), Kiyoshi Suyehiro (International Program Coordinator), Fumiko Tajima, Yukihiro Takahashi (Working Group for Collaborations with Asian and Pacific Academic Societies Chair)

WG members: Jun Matsumoto, Naoyuki Kubota (ZOOM), Takuya Tsugawa

Observer: Takashi Nakagawa

President: Hodaka Kawahata

JpGU Office: Yozo Hamano (Secretary General), Kayoko Shirai, Sachiko Ide

Regrets:

Global Strategy Committee (GSC) members: Kazuyoshi Endo, Masaki Fujimoto, Hisashi Nakamura, Kanako Seki, Shogo Tachibana

Past President: Toshitaka Tsuda

Vice Presidents: Eiichi Tajika, Masato Nakamura, Takashi Furumura

Distribution:

1: Agenda book (pp. 36)

2: JpGU 2018 monthly planner

Meeting Summary: ACTION ITEMS

- 1: アジアにおける長期的な継続が可能なカウンターパートの情報収集を行う（全員）
- 2: 2018、2月開催の EGU-AOGS @フィリピンへの参加者確認をし、必要なら派遣を検討する（委員長・作業部会長・作業部会 WG）
- 3: アジアとの国際連携はボトムアップ型で、2020 年を目標に進める（委員長・作業部会長・作業部会 WG）
- 4: グローバル戦略委員会の新メンバー招致について検討する（全員）
- 5: ジョイントセッションのルールについて協議する（委員長・国際コーディネータ・事務局）

木村委員長により 12:30 開会した。

川幡会長より挨拶があった。JpGU では大会とジャーナルを主軸に国際化を図る。

本日の審議事項や報告事項は 11/28 理事会に上げる。

議題 1. JpGU-AGU Joint Meeting 2020 への展望と今後の国際活動

川幡会長から展望と目標が述べられた。

2020 年は AGU との共同開催、2021 年は横浜開催。2017 年は、ロイヤリティ方式の共同開催であったが、次回は別のモデルで実施する。

共同開催は PEPS のインパクトファクターを含め、国際化を推進する良い機会と捉える。

（資料 2-1）中川オブザーバーより、中国地球科学連合学会年会参加報告があった。国際セッションは日本や台湾などと実施。約 2500 講演。中国語の web を読み取るサポートの必要性。

その後、earth science の派閥、Chinese NSF の関与の有無に関して分析が必要。

Chinese Geoscience Union が中国と台湾にそれぞれ見受けられるため調査が必要。

中国や台湾、香港などを対象に、長期的な継続が可能なカウンターパートの情報収集が必要、などの議論がなされた (Action Item 1)。

(資料 2-5) ミャンマー-MAESA および MGS に関する報告が末廣国際コーディネータからあった。

2019 年にジョイントセッションを立ち上げる計画がある。複数の委員より、ミャンマーに関する話題提供や、現地での学会立ち上げの経験が紹介された。

(資料 2-2) IAG-IASPEI 2017 報告が、白井事務局員からあった。

参加国は、人数の多い順に日本・米国・中国・ドイツ・台湾・ロシア・フランス・オーストラリア・ポーランド・インドなど。

(資料 2-3) AOGS 2017 報告が、白井事務局員からあった。

4 union meeting に AGU が欠席。

2018 年 2 月に開催予定の AOGS-EGU Joint Conference 開催の背景について、木下委員から質問があった。本 Conference に JpGU からの人員派遣が効果的である。

早急に参加可能性を探り、必要なら理事会に追加予算申請をする (Action Item 2)。

(資料 2-7) 川幡会長から GSA 参加報告があった。学会の良い雰囲気づくりや、口頭発表が多いメリットについて議論した。

議題 2. アジア地域における国際連携の今後とアクション

高橋作業部会長より、学協会アンケートのとりまとめ結果が示された。

対話を始めるきっかけに活用し、今後広く会員にアンケートを依頼する。

日本地理学会や日本地質学会の回答について補足説明があった。

各学会に窓口を依頼するのではなく、コンタクトパーソンを探す。

木村委員長より、個人ベースあるいは学会ベースの草の根的な活動が実った事例が紹介された。

西委員より MoU に伴う予算確保の指摘があった。地質学会では渡航費は派遣国負担、滞在費は開催国負担という形で実施し、長続きしている。

高橋作業部会長より、ICT 技術・テレコンの積極的活用、口頭発表リモート化、ポスター電子化について問題提起があった。大会運営委員会等でシステムとルールを決める必要がある。ストーリーリングは旅費よりも安価だが、大会参加費を徴収する参加者に鑑み、平等の保障方策について議論した。

続いて、学会の大会参加の理念について全員で議論した。大会に参加するメリットは、ダイレクトなコミュニケーションをとれることである。大会に参加できない場合にコミュニケーションを最大化するツールとして ICT 技術を利用する方針を確認した。

大谷委員より台湾とのジョイントの進捗について質問があった。ボトムアップのコネクションを強める算段だったが、あまり進んでいない。大気・マントルリソスフェア WS・地質関係のコネクションを生かす方向性について議論された。

木村委員長より、アジアとの国際連携はボトムアップ型で進める。個人コネクションまでサーチを広げ、実績ベースで可能性のあるところから開始する方針が示された。

高橋作業部会長より、アジアとの国際連携は 2020 年を目標にし、技術は村山委員、運営は大会運営委員会のサポートを受けながら検討する方針が示された (Action Item 3)。

議題 3. 第 2 回アジア太平洋マントル・リソスフェアダイナミクスに関する

ワークショップについて（資料 1-4）

審議事項。中川オブザーバーより、ワークショップ開催趣旨と共催承認申請書の説明があった。グローバル戦略委員会として開催趣旨を承認した。予算面は理事会が判断。

議題 4. グローバル戦略委員会の今後の人事について

2018 年 5 月以降は新しい理事会体制で進めるが、それに先立ちグローバル戦略委員長代理を立てる案が諮られた。現委員長が現時点でステップダウンせざるを得ない事情を了解し、次期新体制に至るまでの間、委員長代理を立てて委員会活動を続けることにした。委員長代理については、本人の同意と委員会コンセンサスにより、高橋委員を推薦することとなった。さらに、斎藤文紀氏、中川貴司氏、安成哲平氏など、国際活動で実績のある方々をグローバル戦略委員会の新メンバーを招致するとともに、理事会からの協力体制が充実するよう依頼する(Action Item 4)。

議題 5. JpGU Meeting 2018 でのジョイントセッションについて（資料 2-4）

浜野大会運営委員長より、AGU, EGU, AOGS とのジョイントセッションの応募状況の説明があった。ジョイントセッション開催は、両学協会の regulation を満たす必要がある。EGU とのジョイントは、EGU と JpGU の開催時期に近いが、2019 年に向けて活発化を検討する。AOGS は第一コンビーナが AOGS 会員かつ二か国以上のコンビーナが必要。ジョイントセッションに関するルールについて今後協議する(Action Item 5)。

田島委員より、同じ内容を複数のジョイントセッションに応募している場合の outcome を明確にすべきとの発言があった。

議題 6. その他

ウォリス副委員長より 2019 年は AGU 創立 100 周年であるため、対応を考える必要性の指摘があった。

村山委員より AGU プレプリントサーバーの紹介があった（資料 2-6）。末廣国際コーディネータ・村山委員がアドバイザーを務めている。ポスターに doi を付与する方針を検討中。

次回のグローバル戦略会議は JpGU Meeting 2018 の投稿が終了した 2018 年 2 月末から 3 月上旬で日程調整をすることとなった。

議事はこれからの世界動向把握とアクションの進行チェック 及び JpGU Meeting 2018 期間中の国際活動の方針の予定である。

14:45 閉会

1-1. 2018 年度以降の AGU/AOGS/EGU とのジョイントの推進の仕方について

-資料なし-

1-2. AOGS との MOU の update について

MEMORANDUM OF UNDERSTANDING
Between
The Asia Oceania Geosciences Society (AOGS)
And
The Japan Geosciences Union (JpGU)

The AOGS and the JpGU will establish an agreement to promote collaborations between both organizations and international opportunities for their membership. To that effect, the AOGS and the JpGU will promote the following activities:

1. Expansion of membership of both organizations through joint programs
2. Exchange of information and possible co-organization of scientific conferences


As steps along the path towards better collaboration, both organizations agree that

1. Neither organization shall have any financial obligation to the other.
2. Each organization will offer the other organization an exhibition booth at its annual meetings, gratis.
3. Both organizations will seek collaboration where appropriate.
4. Both organizations will seek collaboration between the secretariat offices
5. Each organization will list the annual meeting of the other organization in its advertisement of upcoming events.
6. AOGS and JpGU invite their leaders (or representatives) to each other's annual meetings, with the registration fee waived but otherwise on a no exchange of fund basis.
7. AOGS and JpGU agree to give each other's members registration at the member rates for their annual meeting/assembly.

This agreement is to be dissolved by either organization at any time with 30 days' notice. The agreement shall be reviewed every (3) years.



Toshitaka Tsuda
President of JpGU



Yun-Tai Chen
President of AOGS



Yozo Hamano
Secretary General, JpGU

Date: 13 October, 2015



David Higgitt
Secretary General, AOGS

Date: 13 October, 2015

File: AOGS-JPGU MOU_2015

1-3. AGU Fall Meeting での「All Japan 合同アイランド」での出展について

-AGU Fall Meeting 2018 では JpGU Booth は昨年同様、4 ブースを予約済

(AGU Fall Meeting 2017 におけるブース出展および JpGU 参加報告書の〈次年度の予約〉参照)

-2017 年 Fall Meeting にて川幡会長と地震研の木下先生 Jamstec の加賀谷さん、JAXA の竹島さんと 2019 年 Fall Meeting での All Japan での出展について、話をした。

JpGU が主導であれば、「All Japan 合同アイランド」での出展も可能である、との意見をいただいたので、2018 年 Fall Meeting (Washington D.C.) での 2019 年 Fall Meeting (San Francisco) のブース予約の前に今後の方針を検討したい。

現在は「4 ブース アイランドで出展」であるが、「6 ブース アイランド」で「Earth Science in Japan」としての出展に向けて担当者と話し合いを開始したい。

1-4. AGU Fall Meeting 2019 Centennial での JpGU としてのアクション

<背景>

100 周年は 2019 年。2017 年 10 月 Centennial Task Force を設立し、Chair は AGU 会長も務めたことがある MIT の Tim Grove 氏。2017 年の Fall Meeting で小規模な活動を開始し、2018 年の Fall Meeting で本格的にスタートする。

<活動>

活動として AGU は 100 年の歴史を祝うだけではなく、将来を見据えた活動を考えたいそう。

新しい大型の賞の設立や奨学金などが検討されているそう。今の時点、AGU Narratives

Project (<https://centennial.agu.org/agu-narratives-project/>)が主要な活動のよう。

また、2017 年の Fall Meeting で創立 100 年記念の Golden Tickets を会場に隠して、見つかるに賞に当たったという企画もあった。

<国際コミュニティとの関係>

2017 年 11 月の Committee for International Participation にウォリスが参加した時の話だと、AGU 執行部は AGU の国際的なインパクトと international members の存在感をアピールするのに良い機会であると考えている。AGU の International Members あるいは Partner Organizations の企画があれば歓迎するし、サポートも検討できる。お金というより宣伝などの活動を想定している感じだった。最新情報について AGU の International Secretary である Susan Webb 女史に問い合わせ中(ウォリス)。

<JpGU できること>

我々ができる具体的な活動について WG を立ち上げて検討するとよいでしょうが、次のことがあり得ると考える。

- 100 年前から 100 年先までの地球科学に関する JpGU 大会での特別セッションや PEPS 特集号の企画
 - AGU へ記念品を贈呈すること
 - 地球科学発展に寄与した人物や組織を対象とした新しい JpGU 賞の設立
- (初回は AGU に与える前提、AGU の共同の可能性もあると考える)

1-5. JpGU-AGU Joint Meeting 2020 の準備

-資料なし

1-6. アジア戦略地域における国際連携の今後とアクション

- JpGU 大会時の e-POSTER の可能性
 - 会場参加の困難な国からの参加に対応
 - 参加の条件：双方向のやりとり？
 - QRコードを用いたアプリでコンタクト？
 - facebook などの活用？
- 他の国の学会組織との連携
 - MOU？
 - ジョイントセッション
- 投稿料や参加費の配慮
- アジアの範囲
 - アジア内外のどの範囲まで
 - 途上国指定国？

1-7. 韓国地球惑星科学連合と JpGU の今後

- 1) 「PyeongChang Forum2018」のレポート
- 2) 韓国地球惑星科学連合の現状と対応
- 3) 2020年のユニオンセッション

1) 「PyeongChang Forum2018」のレポート（議長：Pro.Sang-Mook Lee, PhD:
Chair of the Organizing Committee; PyeongChang Forum: 韓国で有名な先生.
資料 1 参照.

2015年初頭, JSPSのフェローの招聘研究費で, 東京大学地震研究所の歌田研究室に
60日滞在予定

日時: 2018年2月9-11日

場所: Seoul's Grand Intercontinental Parnas Hotel

フォーラムの目的, 講演テーマなど:

Purpose of the PyeongChang Forum

To discuss and share current situation and possible approaches as follows:

- Understanding global environment issues in long-term, scientific views
- Achieving Sustainable Development Goals and the role of the United Nations
- Sustainability for better society, Responsibility for the future generation, etc.

Main Topics of Sessions

- Session 1: Future of Earth and Humans (tentative)
- Session 2: Global Citizenship to Achieve the Sustainable Development Goals (SDGs)

- Session 3: Future report: Sustainability for better society (tentative)

参加者 (Participants) :

(1) High-ranking representatives from local and national governments, academia, and international organizations will be invited.

(2) This forum is open to all comers, but pre-registration is required. Further information will be provided in our official website regarding registration.

日本からは、川幡穂高 (JpGU president) , Future Earth (東京大学: 春日文子 橋下友希) , 朴 進午 先生が招待された。

結論 :

欧米の著名な研究者も含めて、来年以降も「PyeongChang Forum」(地球惑星科学の社会への貢献など) を継続したい。特に、極東の3国の地球惑星科学連合(合同学会)の交流促進する。

2) 韓国地球惑星科学連合の現状と対応

2014年に韓国地球惑星科学関連5学会での最初の合同大会が開催され、それに日本地球化学会会長として招待を受けた。2014年に韓国地質学会(韓国では地質学会の中に地球化学部会がある)と日本地球化学会との間で、MOUを締結した。その当時の韓国地質学会の会長は、CHEONG Daekyo教授で、日本地球化学会の会長は川幡穂高であった。

2014年のAsian Marine Geology@Cheju Islandの折にも、今度はJpGUと韓国の連合との間でMOUを結ぶことを前向きに検討する話題がでた。その後、JPGUグローバルやJPGU理事会においても前向きに検討することとなり、先方にも伝えたとこ、韓国側も前向きに検討している旨返事をもらった。

しかし、その後、両国政府の関係悪化などもあり、Pendingとなっていた。

今回、「PyeongChang Forum2018」にて、川幡がCHEONG Daekyo教授と再会した。

「韓国側の合同大会も軌道に乗ってきて、5月10日を中心に韓国側の合同大会を開催予定である。」「その時に来韓し、MOUを具体的に検討・締結するのも良い」との話が出た。

なお、韓国連合の中で中心的な学会である、韓国地質学会の現在の会長は、ソウル大学Kang-Kun LEE教授で、「PyeongChang Forum2018」のAdversary会議で一緒だった。

議論事項 :

第一歩として、グローバル委員会にて、韓国地球惑星科学関連5学会連合との間に、JPGU-AGUのMOU締結文にそって結ぶ方向で検討したいが、よろしいか？

資料2 参照。

3) 2020年のユニオンセッション

「PyeongChang Forum2018」もオリンピックが開催ということで、各国から参加者があった。2020年には東京でオリンピックが開催される。

提案 :

2020年のJpGU-AGU共同開催の時に、韓国の連合(5学会) President , 中国も現在連合を準備中の President ? を招待してユニオンセッションを開催したら良いのではないか？イメージとしては、25周年の際に、JPGU-AGU-EGU-AOGSでユニオンセッションを開催した。

これを拡大し、2020年にはJPGU-AGU-EGU-AOGS-韓国連合-可能なら中国連合などの代表者によるユニオンセッションの開催準備を検討したいが、よろしいか？

資料1：Pro.Sang-Mook Lee, PhD: Chair of the Organizing Committee, ソウル大学とのpartyにおける写真

(日本に度々来られているので、会われている方も多いと思うので、写真を添付します)



1-8. グローバル戦略委員会の任務の刷新について

(現行の)グローバル戦略委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、定款及び法人運営基本規則に基づき、グローバル戦略委員会に関し必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第2条 グローバル戦略委員会は、国際的な研究協力及び交流活動の推進を図るために必要な事項について審議を行い、その結果を理事会に報告する。また、日本学術会議等の機関と連携協力して、国際的な研究協力及び交流活動の推進に努める。

(委員の任期)

第3条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(委員長及び副委員長の任期)

第4条 委員長及び副委員長の任期は、委員の任期による。

附則

本規則は、この法人の設立の登記の日に遡って適用されるものとする。

附則

平成26年3月8日委員会名変更

報告事項

2-1. AGU Fall Meeting 2017 参加報告

地球惑星科学分野において、世界最大の規模である American Geophysical Union の 2017 Fall Meeting が（2017 年 12 月 11-15 日）、ニューオーリンズ アーネスト N.モリアルコンベンションセンターで開催され、日本地球惑星科学連合は展示企画に参加した。2014 年よりアイランドブースに拡大した展示では、AGU とのフルジョイントとなった 2017 年の JpGU-AGU Joint Meeting 2017 のお礼と JpGU Meeting 2018,その後控えている 2 度目の AGU とのフルジョイントミーティングとなる JpGU-AGU Joint Meeting 2020、および横浜で開催予定の JpGU Meeting 2021 の宣伝 PR に努めた。他に、2014 年 4 月に創刊された連合の公式ジャーナルの紹介、および連合の団体会員である地球惑星科学関連学協会の国際ジャーナルの広報、加えて、日本におけるポスドクの受け入れなどの説明の為、JSPS サンフランシスコオフィスより資料を送付いただき、参加者の質問に答えた。遠方である為、担当者の参加はかなわなかったが、バーコードスキャナーで読み取った来訪者データを担当にお送りし、ブースを訪れた参加者に直接連絡をしてもらうこととした。本報告では、イベントにおける概要、出展内容・結果などを報告する。

1. AGU Fall Meeting 2017 概要

名称	AGU Fall Meeting 2017
日時	2017 年 12 月 11 日（月）～15 日（金）
会場	New Orleans Ernest N. Morial Convention Center
参加者数	Not announced yet / from 92 countries
セッション・発表数	1,916 セッション・20,810 件(Oral:8,017/Poster:12,793)
出展ブース数	309 (including 47 Academic Showcase)
ウェブサイト	http://fallmeeting.agu.org/2017/

◎会期中のイベント

※イベントはこの他にも多数あったが、JpGU と関連があるもしくは JpGU 関係者が参加したイベントを記載している。

12 月 10 日（日）	13:00-17:00	Field Trip for Press
	17:00-18:30	International Reception
12 月 11 日（月）	18:00-20:00	Ice Breaker Reception ※Jazz 演奏が見られた
12 月 12 日（火）	7:00-8:00	Student Breakfast
	16:00-18:00	AGU-JpGU Great Debate
12 月 13 日（水）	18:00-20:00	Honors Ceremony
	20:30-23:00	Honors Banquet

2. JpGU ブース

JpGU ブースは入り口からの距離は多少あったが、見つけやすい位置であったという声が多かった。

（下記図参照）

2015 年度より導入した、ハンギングサインが遠くからもよく見えるとのことで今年も好評であった。このハンギングサインは一年間\$650 で昨年度と同じ業者に保管を依頼し、今年度も再度使用した。来年も引き続き保管してもらうことになっている。

展示会場図（ブース位置）

Booth #845



1.Circle Hanging Sign 4'DIA X 4'H(直径 121.92cm (円周 383) X 高さ 121.92cm)

2.サイドパネル 8 枚

3.カウンタ前面 4 枚

＜“Geoscience Japan” 出展内容詳細＞

ブース内エリアをテーマ毎に 4 分つに分割した。

1) 日本地球惑星科学連合エリア（2 面）

【出展内容】

- ・JpGU Meeting 2018 および JpGU Meeting 2019, JpGU-AGU Joint Meeting 2020, JpGU Meeting 2021 in Yokohama の宣伝紹介
- ・日本地球惑星科学連合およびそのセッション活動紹介
- ・日本地球惑星科学連合のロゴを掲載している国際誌の紹介・宣伝
 - Earth, Planets and Space (SGEPSS)
 - Mineralogical Petrological Sciences (日本鉱物科学会)
 - Geochemical Journal (日本地球化学会)

Hydrological Research Letters (水文・水資源学会)
Journal of Agricultural Meteorology (日本農協気象学会)
Resource Geology (資源地質学会)

<PR 用配布物>

連合の紹介パンフレット 400 部
JpGU Meeting 2018 リーフ 900 部
JpGU-AGU Joint Session リスト
JpGU-EGU Joint Session リスト
JpGU-AOGS Joint Session リスト
JpGU Meeting 2018 総セッションリスト

【出展結果・来場者の傾向】

今回はアイランドブースも 4 年目、ということで、JpGU のブースを知っていて訪れてくれる参加者とゆっくりブースで話
ができた。話をさせていただいた参加者のうち半数以上は当連合を知っている、あるいは参加したことがあり、昨年までは
販促グッズをもらう目的でブースを訪れる参加者も見られたが、本年度は本当に Meeting に興味をもった方が自主的に
ブースを訪れてくれた印象である。ブースは日本人参加者の待ち合わせ、小打ち合わせなどの場の役目もはたしていた。
来年度は最初にブース予約をした JpGU の周りに Jamstec, ERI, JAXA など皆集まって予約をしてくれた。Jamstec
の加賀谷氏からは AGU FM 2019 には All Japan で出展できるよう、JpGU が声をかければ Jamstec としては検討
の余地があるとの助言があった。

【ブース担当：事務局 白井佳代子・井出幸子】

2) PEPS エリア

【出展内容】

- ・連合ジャーナル Progress in Earth and Planetary Science(PEPS) の 紹介および投稿の呼びかけ
- ・投稿サイト、投稿方法などの案内
- ・出版済み論文のプリントアウト

【出展結果・来場者の傾向】

2017/12/11-12/15 にアメリカ、ニューオリンズ、モリアル国際会議場で開催された、2017 AGU (American
Geophysical Union) Fall Meeting に JpGU/PEPS ブースを出展し、オープンアクセス・ジャーナル PEPS の認知度
を高め、読者を増やし、投稿を促すための宣伝活動を行った。

従来通り、PEPS のインパクト・ファクター (IF) 値についての問い合わせは多かったが、急遽準備した IF 取得予定を紹
介するパンフレットが説明の際に非常に役立った。また、編集を担当した研究者からは、「congratulations」と声をかけ
られる事が何度もあり、出版経験者からは IF の重要性への理解と PEPS への興味を示してもらえた。さらに、PEPS に
IF が付く事を強くアピールしたためか、以前に比べ、対象分野や掲載料 (APC) などの具体的な質問が増え、PEPS へ
の認知度が一歩進んだ手ごたえを感じた。また、学生や PD を中心に、連合大会で準備した Review 論文中心に
abstract を載せているパンフレットを使用して Review 論文を積極的に紹介した。その場で、興味のある論文の QR コ
ードを使って論文にアクセスする学生の姿も見られた。論文サンプルも印刷して配布したが、PEPS の扱う分野が一目で
見える事もあり、連合大会用パンフレットは PEPS の特徴を紹介するのに有効なので、Review 論文を出版していない
分野の代表的な論文の紹介も必要かと思った。

今回は、川幡先生はじめ連合関係の先生方がブースに在席される事も多く、心強かった。

(配布物) :

地球儀パンフ 480、連合大会パンフ 366、IF パンフ 368、印刷論文 57 部、ノベルティ (テープのり 800 個、メモ帳 370 個) 。 ノベルティは昨年のブランケットほどの行列はできないものの、まずまず好評だった。

今回もバーコード・スキャナーをレンタルし、約 580 名の来場者の情報を収集し、AGU 終了後の来場御礼メールに役立てた。昨年に比べ 150 名ほどスキャンした来場者数は少なかったが、昨年より多くの来場者に PEPS の説明ができた。

PEPS のサイトから論文をダウンロードした事がある、今年の連合大会に参加した、去年も来てたねといった好意的な来場者も増えているので、継続的にブース出展して PR していく事は重要だと感じた。

3) 日本学術振興会(JSPS)エリア

【出展内容】

・日本学術振興会国際交流事業 (特に外国人招へい研究者) の宣伝紹介

<PR 用配布物>

・Fellowships for Research in Japan 2016(英文)280 部

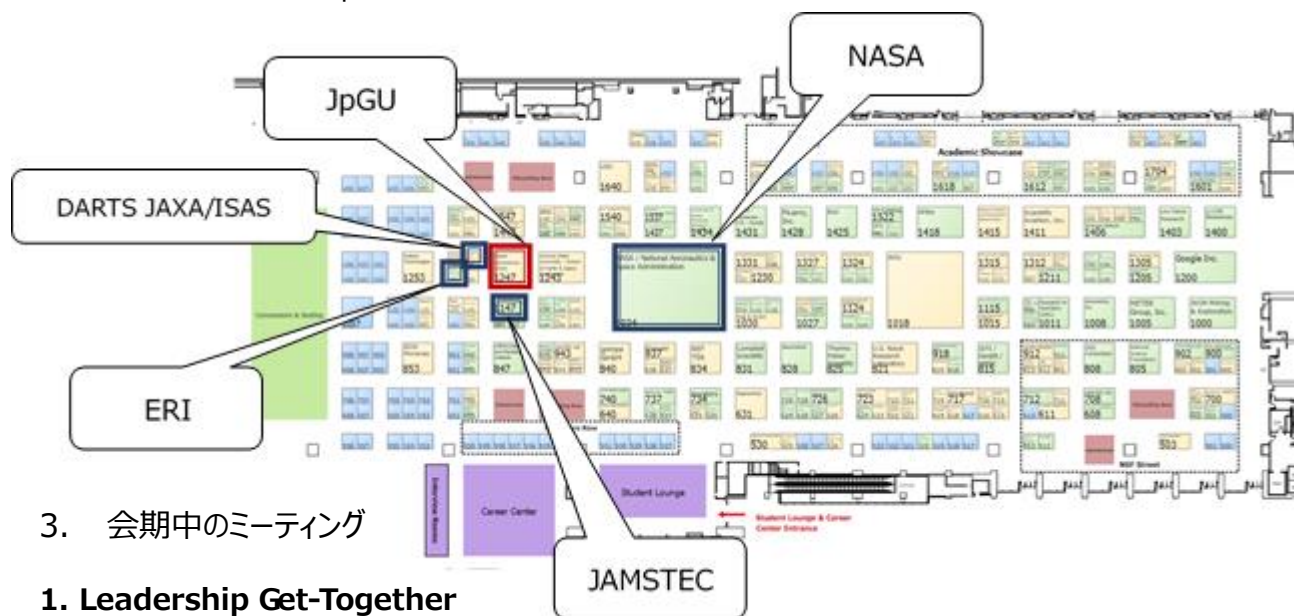
・国際事業部事業案内 (英文) 60 部

例年通り、全体として絶え間なくブースへの来訪者があった。今回は JSPS からスタッフの派遣がなかった為、奥村晃史理事、安成哲平理事などが積極的に対応くださった。 具体的な質問には後ほど JSPS SF より直接連絡してもらうこととした。

<次年度の予約>

来年度のブース予約も Spargo と Fall Meeting 中に行った。ほぼ本年度と同じスペース # 1247 を予約した。

FM2018 では、JAMSTEC が JpGU の向いの #1147、ERI が #1350、DARTS JAXA/ISAS が #1251 と JpGU の近くに予約をいれ、All Japan で協力する体制になった。



3. 会期中のミーティング

1. Leadership Get-Together

Date and Time: December 12, TUE, 8:30AM-9:30AM

Place: MCCNO, Mezzanine, Ma Maison

Attendees: JpGU: Hodaka Kawahata, Takashi Furumura, Kiyoshi Suyehiro, Yukihiro Takahashi, Yasuhiro Murayama, Masataka Kinoshita, Satiko Ide, Kayoko Shirai

2. Meeting on preprint server with Brooks Hanson

Date and Time: December 12, TUE, 9:30AM-11:00AM

Place: MCCNO, Mezzanine, Ma Maison

Attendees: JpGU: Kiyoshi Suyehiro, Yasuhiro Murayama, Kayoko Shirai
AGU: Brooks Hanson

Other informal meetings

1. Meeting with NASA

Date and Time: Dec 13, Wednesday, 4PM-5PM

Place: Exhibitor's Lounge

Attendees:

JpGU Go Murakami, ISAS/JAXA

Kiyoshi Suyehiro, International Program Coordinator

Atsushi Kyono, JpGU Meeting Organizing Committee

Masahito Nose, JpGU Meeting Organizing Committee

Kayoko Shirai, International Program Manager

NASA Winnie Humberson, Task Lead, NASA Science Outreach Support Office

2. Meeting with AOGS

Date and Time: Dec 14, Thursday, 10:50AM-11:30AM

Place: Exhibitor's Lounge

Attendees:

JpGU Kiyoshi Suyehiro, International Program Coordinator

Kayoko Shirai, International Program Manager

AOGS Cheng-Hoon Khoo, Meetmatt

3. Meeting with EGU

Date and Time: Dec 15, Friday, 9:30AM-10:00AM

Place: EGU Booth

Attendees: JpGU Kiyoshi Suyehiro, International Program Coordinator
Kayoko Shirai, International Program Manager

EGU Philippe Courtial, Executive Secretary

4. 会期中のイベント

1. AGU-JpGU Great Debate

Date and Time: Dec 12, Tuesday, 4:00PM-6:00PM

Place: E2, New Orleans Ernest N. Morial Convention Center

Conveners: Denis Didier Rousseau, AGU Fall Meeting Chair

Atsushi Higuchi, JpGU Meeting 2018 Program Committee Chair

Panelist from JpGU: Atsushi Toramaru, Kyushu University

Takahiro Sayama, Kyoto University

2. Honors Ceremony

Date and Time: Dec 13 Wednesday 6:00PM-8:00PM

Place: New Orleans Theatre, New Orleans Ernest N. Morial Convention Center

川幡会長が、JpGU 代表として 第3回平賞 (Asahiko Taira International Scientific Ocean Drilling Research Prize)受賞者 Michael Strasser 氏に贈呈をおこなった。

又、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) の中島映至氏が fellow を受賞した。

5. その他

この他、プレス向けのフィールドトリップ、学生プログラム、学生賞等大会の運営に関しては別途関連委員会に報告をあげることとする。



2-2. AGU FM2017 における Partner Union との交流報告

MOU による連携のある国外学会との交流 AGU2017 New Orleans 文責：末広

American Geophysical Union (AGU and JpGU Leaderships) 12/12

- (1) AGU の招待で朝食会が行われ、互いに活動報告を行った。
- (2) AGU Centennial 2019 (American Meteorological Society の百周年と連携する) への協力依頼があった。
- (3) AGU は IEECAS (Institute of Earth Environment, Chinese Academy of Sciences, Xi'an)と PM2.5 の国際会議 (1500-2000 人規模想定) を予定 (2019 ?)。Chapman よりは大規模

Asia Oceania Geosciences Society (Khoo Cheng Hoon) 12/14

- (1) MOU を更新する時期である。2014 年 1 月 27 日署名から再検討をする 3 年を経過している。JpGU2018 で改定案など協議し、AOGS ハワイ 2018 期間中までに MOU を更新、署名交換する。
- (2) ジョイントセッション (co-sponsorship) の扱い。JpGU2018 大会に於けるジョイントセッションは、6 セッション予定された。AOGS としては、AOGS のセッションルールに基づけばよい。すなわちメインコンビナーが AOGS メンバーであること、コンビナーの構成国が 2 カ国以上であることを同時に満足することである。JpGU2018 ではこれをどちらかを満たせばいいように AOGS 側のはからいにより緩めたが、次回以降は AOGS ルールになる。現在のところ AOGS 大会にはジョイントセッションの分類はない。

- (3) Regional Advisory Committee の結成 (Wing-Huen Ip 議長 (台湾)、Philippine, Taiwan, India, Indonesia, Singapore, Viet Nam, Malaysia, 日本 (東北大後藤和久准教授、気象研究所中澤哲夫氏))。目的は、ASEAN、インドの地球科学界の連携を促進する。

Regional Advisory Committee Mission is to develop AOGS into the largest non-profit, geoscience networking group in Asia and their main goals are to

- Enhance membership and participation from the geoscientists in ASEAN and India
- Promote multi-lateral academic interaction among various research labs
- Identify opportunities that address diversity, equity and inclusion

(http://www.asiaoceania.org/society/public.asp?view=office_bearer_rac#RAC)

European Geophysical Union (Philippe Courtial) 12/15

- (1) ジョイントセッションの扱い。JpGU2018 大会に於けるジョイントセッションは、16 セッション予定された。ジョイントセッション提案はカウンスル判断ではなく、プログラム委員会で検討する。重要なことは、同じテーマのセッションを EGU, JpGU で連続開催することである。2019 年以降はそのように行いたい。まずは 2019 年の EGU からとすると 2018 年の EGU のセッション提案までに詳細をつめる必要がある。
- (2) EGU2018 では、AGU-AOGS-EGU-JpGU の円卓会議をホストする。JpGU からのフィードバックが欲しい。

2-3. オープンサイエンス関連動向 – AGU「プレプリントサーバ」–

CONFIDENTIAL 本資料は JpGU グローバル戦略委員会および委員会会議関係者限り
AGU ESSI (Earth and Space Science Informatics) Section Executive Committee
Meeting Notes (2018/2/20)

Agenda

ESSI ExComm meeting

Tuesday, February 20, 2018

- **Fall meeting planning (Jane)**

- Mirrored EGU/AGU/JPGU session?

- What was the EGU session we need to get into AGU?

- Put out call for session organizers?

- What about JPGU?

- **Student grant progress**

- **Honors committee (略)**

- **Fellows (Peter)**

- Elections (略)
- Website review
- Meeting

- Is this day/time OK for a monthly call? Jane would prefer Wednesday, same time
 - March 20 - I'll be in Germany
 - Denise can't do same time on Wednesdays
- Switch to Zoom?

Attendees:

Ruth, Denise, Lesley, Peter, Yasuhiro Murayama, (Jane can't make the call), Matthew Mage

Notes: (以下、議事メモから村山が抜粋)

Fall meeting planning

planning committee

Jane: chair, Lesley and Mark: support (maybe Jens too).

Mirroring EGU/JPGU/AGU sessions.

Today: the day that sessions will be released for the fall meeting this year (?)

Panel sessions through ESSI like last year? only have 2-3 panels?

New rule: a convener for a session cannot be a speaker in the session.

With the mirrored EGU/JPGU/AGU sessions, do we want to get a few topics that will make them more balanced?

Ruth - that should be part of Jane's email but makes sense (if there are topic areas that we think as a group that should be on the agenda, we should let the community know).

Lesley - we have a new interest group at RDA - [Earth Space and Environmental Science Interest Group](#) ([link to charter](#)); [Meeting agenda at P11](#).

注：上記リンク URL

[Group site:](#)

<https://www.rd-alliance.org/ig-earth-space-and-environmental-sciences-rda-11th-plenary-meeting>

[Group charter:](#)

<https://rd-alliance.org/group/earth-space-and-environmental-sciences-ig/case-statement/earth-space-and-environmental>

[Meeting agenda at RDA Plenary 11:](#)

<https://www.rd-alliance.org/ig-earth-space-and-environmental-sciences-rda-11th-plenary-meeting>

Trying to raise awareness of things like EarthCube and Belmont forum which are international. Could she list that we are working with EGU and JPGU to harmonize sessions. Ruth and Denise have no hesitation on AGU.

(注：RDA (Research Data Alliance)。WDS、CODATA など ICSU 系の国際組織も共同して、研究データの

共有や相互利用の技術、サイエンス、制度・ライセンスなどを議論、国際コンセンサスをとる。AGU、EGU に参加する研究者、専門家、図書館員、データマネージャ等も参加しはじめているもよう。)

Murayama - JPGU will have session on role of open data and open science. Inviting people from AGU (Chris Mcernie (sp), Brooks Hanson, Kerstin Lenhert, etc.). Welcomes closer work with these various groups in the future. Ruth asked if JPGU would be interested in being a part of the RDA IG collaboration? Murayama will check with their committees and hopes to be involved in that.

Peter - EGU and AGU ESSI - direct mirroring of sessions with AGU publication policy - while session names and conveners can be the same, presenters can not submit identical abstracts. Must be considerate of the term mirroring.

Lesley - Was thinking if we ran a session, would get AGU participants at AGU and EGU participants at EGU.

Ruth - just would need to make sure with conveners that they understand they need to have different abstracts and invited speakers

Lesley - Looking at EGU sessions, there is one for Open data and reproducible science. [Link to program \(https://meetingorganizer.copernicus.org/EGU2018/sessionprogramme\)](https://meetingorganizer.copernicus.org/EGU2018/sessionprogramme).

Ruth - we might want to try and develop a process, but the email from the program team will need to have that information.

Lesley - we do need to be careful thought of the conveners who are also speakers (can do with posters, but not oral). Helen said they did the same process with EGU this year.

Ruth - we will need to get the website updated equivalently. Sarah asked where to put the page, suggested under the [fall meeting page \(https://essi.agu.org/fall_meeting/\)](https://essi.agu.org/fall_meeting/) with a link/call on the home page.

Peter had questions about use of the email list to call for sessions. It was found that people who sent out messages got the most abstracts submitted to their sessions. Lesley mentioned that was when it was most active. Peter said we might want to revise the description of the list so people understand what they are getting into when they register/setting expectations.

Ruth asked Lesley if she had the metrics related to the groups that sent out emails got the most

abstracts. Lesley said she would have to recreate the work, but it was a rough analysis. Lesley had asked about the mailing list being used for solicitations last year and no one responded.

Lesley mentioned they tried to host a page for discussion on sessions but that didn't work. But they have in the past emailed people to let them know there was a similar session already submitted. Ruth thinks that is a good idea, and it (that they will be monitoring submissions) should be included in the email to the list. Lesley said some groups are fantastic and then got together.

Lesley was at the OSM, someone asked if she would join a meetings committee at AGU to help with developing cross sessions. Peter clarified, that that this is the 'all meetings' at AGU committee.

Student grants

略。

Honors committee (skipped with Helen absent)

略。

Fellows

略。

Elections

略。

Website

Ruth asked people to look at the website. There are areas that have been considerably updated, other areas not so much yet. Ruth asked people to look over the pages. Sarah asked that people specifically look at the [history pages](https://essi.agu.org/essi-history/) (<https://essi.agu.org/essi-history/>) and [Leptoukh winners](https://essi.agu.org/essi-awards/past-leptoukh-award-winners/) (<https://essi.agu.org/essi-awards/past-leptoukh-award-winners/>)

Meeting times

This current time doesn't work for Jane (Tuesdays). Could we move it to Wednesdays? That doesn't work for Denise and Lesley. How about Thursdays? That makes it Friday for Lesley. Ruth will check with Jane to see if Thursdays work for her. Next month on that Thursday is the RDA meeting. Some of us will be in Germany at that time. Sarah suggested we meet in person - Peter, Lesley, Helen, Denise, Ruth, and Sarah will be there. Will try to schedule something during the RDA lunch, 12:30 pm -13:30 pm CET. Murayama may be able to call in depending on the time and his travel plans. He will let us know.

Zoom

Did that work for everyone? Lesley thought it worked better than Skype. Everyone agreed. Ruth said we will use it moving forward. The link should stay the same.

Action items:

- Ruth will look at the welcome message for the google group list and see what can be done to update it.
- Jane, Lesley, Mark to work on a message to the ESSI email list in regards to the upcoming fall meeting - changes, email traffic, processes, mirrored EGU/JPGU/AGU sessions, etc.
- Yasuhiro to find out if JPGU is interested in the new RDA [Earth Space and Environmental Science Interest Group](#) ([link to charter](#)) and their call to harmonize activities across all groups (AGU, EGU, etc.)?
- Sarah to update the website to add information about the fall meeting processes - put the page under the [fall meeting page](#) with a link/call on the home page.
- All - Review the [history pages](#) and [Leptoukh winners](#) ESSI web pages.
- Yasuhiro let us know whether he can call in for the next monthly meeting if the time is changed to be 12:30 CET on Thursday.

Lesley Wyborn <lesley.wyborn@anu.edu.au>のメール :
(Fri, 23 Feb 2018 10:05:50 +0000)

Dear Ex Com

Following up on our decision to consider co-sponsored sessions with EGU and JpGU.

I was just discussing with Jane about what a Co-Sponsored session actually is and decided to look up the official definition for 2018.

A co-sponsored session for 2018 is defined on:

<https://fallmeeting.agu.org/2018/session-proposals/prepare-for-submission/> as follows:

Co-sponsored Sessions

AGU has agreements with select

organizations<<https://fallmeeting.agu.org/2018/session-proposals/submission-steps/fall-meeting-co-sponsored-societies/>> to “sponsor” sessions within specified sections. If you select to have the session proposal co-sponsored by one or more of these societies, this will be used as a reference tool for those societies and the attendees to see which sessions will apply to members

or constituents of the co-sponsoring societies. Co-sponsored sessions will be reviewed and are subject to approval by the co-sponsoring societies or program organizers.

For 2018, the list of 'select organizations' only includes JpGU – it does not include EGU for informatics (note only 3 EGU Divisions qualify, but all JpGU Sections do!)

I am wondering how we can fix this, particularly given as we have Helen on the both the AGU and EGU ESSI committees to help us.

We probably won't be able to fix it for 2018, but it would be good for future Fall Meetings.

Take care

Lesley

P.S. This is the list of organisations that qualify for 'co-sponsorship':

SWIRL Themes

SWIRL (*Sessions With Interdisciplinary Research Linkages*) themes are used to curate your experience at Fall Meeting. Themes will expand scientific horizons by helping attendees make new connections and discuss new developments in related fields of Earth and space science. SWIRL themes reveal interdisciplinary solutions through the sharing of research, discoveries, and approaches across disciplines. After the 2018 session proposal submission deadline, the Fall Meeting Program Committee will review all session proposals and add or remove SWIRL Themes based on emerging topics.



"The past decade has experienced new developments in every field of Earth science and space study through concepts, approaches, and technologies. In some cases, the focus is becoming so narrow that getting a new insight from another discipline with its own concepts, approaches, and techniques provides a real added value.··· The SWIRL sessions are providing a 'plus' to the attendees, introducing them to a series of sessions that could lead to new ideas, proposals, or new way of considering one's own prospects."

-Denis-Didier Rousseau, AGU Fall Meeting Program Committee Chair

2018 Proposed SWIRL Themes and Descriptions

Planetary Discovery

The Planetary Discovery SWIRL examines the physical processes within our solar system that led to the formation of Earth and other planets, and highlights, in a comparative way, the differences in their atmospheres, surfaces and interiors. Topics in this SWIRL also cover the themes of planetary habitability, recognition of extraterrestrial biosignatures, and investigative approaches to detecting life elsewhere in the solar system. Results come from laboratory studies, computer modeling, astronomical observations, and past and present spacecraft measurements throughout the solar system.

Climate

The climate system is composed of various components, including the atmosphere, hydrosphere, cryosphere, lithosphere, and the biosphere. This topic will highlight the scientific advancements in research dealing with climate variability, climate change and climate change impacts, global to local scales, and paleoclimate reconstructions to future climate projections.

Earth Processes

From the Earth's magnetosphere to its inner core, the geosphere, the biosphere, the hydrosphere and the atmosphere interact in large-scale processes that have governed the Earth's evolution since its formation. A selection of sessions and named lectures are brought together to highlight how a diversity of observations and models shed light and deepen our understanding of earth processes.

Science & Society

Advances in geosciences can help inform society regarding policies to manage natural resources, like freshwater and fossil fuels, and to better prepare and respond to challenges that arise due to Earth processes, like weather extremes and earthquakes. These sessions

relate research advances to societal impacts, societal benefits, and ways to enhance society's interactions with Earth systems.

Natural Resources

The Natural Resources SWIRL is comprised of sessions that have a good balance among topics to given resources, energy challenges, methods for their identification, processes taking places, management and modeling with particular emphasis on water resources.

Extreme Events & Hazards

Extreme events and hazards are frequently observed, due to strong land-ocean-cryosphere-biosphere-atmosphere coupling. Hazards are associated with Earth systems, impacting all kinds of life, environment, ecology, climate, and resources. Sessions under the Extreme Events & Hazards topic provide new insights to understand the physics of all kinds of extreme events and hazards and their impacts on day-to-day life, monitoring, planned new observations, new tools to explore ways and means to predict extreme events and associated hazards, to save life and minimize losses.

Data & Rising Technologies

Earth and space science data are critical to scientific advancement and improving our understanding of how natural systems and phenomena operate and change over time. Wherever possible, data should be openly accessible and preserved for reuse into the future. Emerging technologies are creating new instruments, new sensor arrays, and new platforms that enable the collection of new data types and/or improve the resolution, accuracy, and precision of data collection methodologies. Frontier computational techniques (machine learning, semantic technologies) and visualization tools are rapidly influencing the way we collect data and conduct our science, thus forming a fertile breeding ground for new ideas and never-before-attempted science.

Soils

Soils are both responders and drivers of critical environmental changes facing the Earth. This SWIRL accounts for all aspects of the complexity of the soil system including erosion; dust production; soils in water, transport, and chemistry; isotopic analyses; pedogenic processes affected by volcanism; physical, chemical, and biological composition; fertility; greenhouse gas production; and weathering. The soils SWIRL will provide bridges of interdisciplinary and communication across the AGU membership to characterize and quantify soil processes from microbial to tectonic scales.

Do You Have a Collaborative Session Proposal?

Co-organized • Cross-listed • Co-sponsored

Does the proposal apply to AGU Sections other than the primary one to which it is being submitted? (Don't forget about the new GeoHealth Section!)



Is this proposal being submitted with co-conveners from the other applicable Section?



Then select "Yes" to being **co-organized** during the submission process and select up to four applicable Sections.



Then select "Yes" to being **cross-listed** during the submission process and select up to four applicable Sections.



Would the proposal be applicable to the membership or mission of other societies?



Then select the applicable **co-sponsoring** society when asked during the session submission process.



Then select "No" when asked for **co-organized**, **cross-listed**, and **co-sponsored** during the session submission process.



Truly Collaborative

Note: **Co-organized** sessions have to be approved by the Program Committee (PC) representatives of all Sections involved. If approved, this session will be listed under all **co-organizing** Sections during the abstract submission process.



Used Only for Reference

Note: **Cross-listed** Sections will be used only for indexing purposes. If the proposal is approved, these **cross-listings** do not need to be approved by the PC but will be on the session for reference during the abstract submission process and in the program book.



Does the session proposal fall under the below Sections and **co-sponsoring** societies? These requests will be reviewed by the **co-sponsoring** society.

(For a complete list of Sections click on chart below.)

Society	Section
AMS	A, NG
EGU-GD	DI, NG
EGU-GMPV	VGR, NG
EGU-TS	T
GS	VGP
IAS	O, PP
JpGU	All S/FG
MSA	VGR, MR
SEPM	EP
SEG	NS

The 2018 SWIRL themes will be determined by the Fall Meeting Program committee, based on common cross-cutting themes that emerge from accepted sessions.

SWIRL themes will not be selected by conveners during the session proposal phase. More information will be available in May.

fallmeeting.agu.org/2018/swirls/

2-4. AOGS-EGU Joint Conference フィリピン大会会議参加報告

2018 年 3 月 5 日

グローバル戦略委員会

松本 淳

The 1st AOGS-EGU Joint Conference on “New Dimensions for Natural Hazards in Asia” held at Taal Vista Hotel, in Tagaytay, Philippines during 5-8 February, 2018.

2018 年 2 月 5～8 日にフィリピンマニラ近郊の火山観光地 Tagaytay で開催された上記会議に参加・発表したので概要を報告する。

Sessions:

- A. Natural hazards in the megacity
- B. Transient and long-term effects of catastrophic perturbations
- C. Hazard development under a changing climate
- D. Multi-hazard interactions (cascades)
- E. Black swans and grey swan events
- F. Natural hazard communications, warning systems and monitoring programmes
- G. Single Hazard Case Studies

以上 7 つのセッションが午前中 2 枠、3 会場で開催。質疑時間込みで、特別発表 30 分、一般発表 15 分、ポスター紹介 3 分。

午後は、テーマ別の Breakout Discussion 50 分、3 会場、その後 Workshop Panel が 60 分、2 会場。ブレイクの後ポスター発表 70 分の後、50 分の Plenary Talk。

セッション分けが専門別でなく、テーマ別になられ、学際的だったのが特徴。

Breakout Discussion では参加者全員が発言させられるものもあり、これも学際的。

Plenary Talk は火山や水災害、スマトラ地震など、地域にふさわしいテーマでの優れた包括的発表。

Workshop Panel 最終日の“Publishing natural hazards research” では 5 名のパネリスト中 3 枚が EGU 関係者、佐竹氏が Geoscience Letter、私が PEPS Human-geoscience 編集委員長として登壇。日本人のプレゼンスを示した。Program の詳細は次ページ以下に紹介。当初は予定になかった夕食も昼食共々連日会場に出され、参加者の交流に大きく寄与。

参加者：総計 213 名、うち 99 名が新規参加者。アジアが 78%、ヨーロッパ 17%、アメリカ 5%。上位 5 カ国はフィリピン 27%、シンガポール 13%、中国 10%、台湾 8%、日本 7%。アジアの中にはシンガポールや中国本土の大学等に所属する欧米の研究者およびそこの留学生も含まれ、国際的に多彩な印象。日本からの大学院生は、東大（中国人留学生）・北大の 2 名のみ。直前の Mayon 火山噴火で参加者のキャンセルが 10 数名程度出たとのこと。他にも発表キャンセルは 20%程度あった印象。発表タイトルから判断した内容の分野は下表のとおり。

分野	発表数	分野	発表数	分野	発表数
地すべり・土石流	32	大雨・洪水	32	地震・津波	30
火山	20	地殻変動・活断層	19	台風・高潮	18
災害一般・防災教育	18	旱魃	7	その他気象災害	6
大気汚染	3	氷河湖決壊	2	強風	2

全体的に地震・津波・火山・地すべり関係者が多く、気象関係は少なかった。台湾中央気象局長の発表があったことが印象的。

主催者は“Experimental”と言っていたが、少人数での濃密な議論により、参加者の新密度を高めることに主眼があった模様。相当数の参加者（特に欧米・中国）がフィリピンは初めての訪問。フィリピン観光局の多大な支援もあった模様。閉会式の際に主催者が挙手で尋ねた感想では、「また参加したい、またフィリピンに来たい」との回答が多く、会議としても観光客誘致の点でも成功したと言ってよいのでは？

<プログラム>

New Dimensions for Natural Hazards in Asia: An AOGS-EGU Joint Conference Programme Overview (Actual May Vary)

	Monday, 5 February 2018 Taal Vista Hotel Lake Wing (Lobby)			
06:30 - 16:30	Taal Volcano Field Trip - Advance Booking Required Participants to Gather at Taal Vista Hotel Lobby by 06:15			
16:00 - 19:00	Registration (Foyer Outside Ballroom 2)			
17:30 - 19:00	Welcome Reception (Ballroom 1)			
	Tuesday, 6 February 2018 Taal Vista Hotel Lake Wing (Lobby)			
07:30 - 18:00	Registration (Foyer Outside Ballroom 2)			
Room:	Lily-Santan	Ballroom 3	Ballroom 2	Ballroom 1
08:00 - 08:20	Poster Set-up			
08:30 - 10:15	Oral Presentations Theme E: Black swans and grey swan events	Oral Presentations Theme A: Natural hazards in the megacity	Oral Presentations Theme F: Natural hazard communications, warning systems and monitoring programmes	Oral Presentations Theme G: Single Hazard Case Studies
10:15 - 10:45	AM Break (Covered Terrace)			
	Poster Set-up			
10:45 - 12:30	Oral Presentations Theme E: Black swans and grey swan events	Oral Presentations Theme A: Natural hazards in the megacity	Oral Presentations Theme F: Natural hazard communications, warning systems and monitoring programmes	Oral Presentations Theme G: Single Hazard Case Studies
12:30 - 13:30	Lunch (Covered Terrace)			
13:30 - 14:20	Breakout Discussion 1: What are the grand challenges for natural hazards research in Asia?	Breakout Discussion 2: Post-event surveys and ethics: How long to wait after a disaster occurs to do a scientific post-event survey?	Breakout Discussion 3: Warning systems: hits and misses; what is needed for effective warning; who should issue a warning?	
14:30 - 15:30		Panel 1: Space-based technologies in Natural Hazards: Research and response	Panel 2: Science and Reinsurance: mutual needs and benefits	
15:30 - 16:00	PM Break (Covered Terrace)			
16:00 - 17:10	Poster Viewing Session: Themes A, E, F, G			
17:10 - 18:00	Plenary Talk 1: Taal volcano, natural history and hazard			
18:00 - 18:30	Poster Tear-down			
18:00 - 19:30	Dinner (Covered Terrace)			
	Wednesday, 7 February 2018 Taal Vista Hotel Lake Wing (Lobby)			
07:30 - 18:00	Registration (Foyer Outside Ballroom 2)			
Room:	Lily-Santan	Ballroom 3	Ballroom 2	Ballroom 1
08:00 - 08:20	Poster Set-up			
08:30 - 10:15	Oral Presentations Theme C: Hazard development under a changing climate	Oral Presentations Theme A: Natural hazards in the megacity	Oral Presentations Theme F: Natural hazard communications, warning systems and monitoring programmes	Oral Presentations Theme D: Multi-hazard interactions (cascades)
10:15 - 10:45	AM Break (Covered Terrace)			
	Poster Set-up			
10:45 - 12:30	Oral Presentaitons Theme B: Transient and long-term effects of catastrophic perturbations	Oral Presentations Theme A: Natural hazards in the megacity	Oral Presentations Theme F: Natural hazard communications, warning systems and monitoring programmes	Oral Presentations Theme D: Multi-hazard interactions (cascades)
12:30 - 13:30	Lunch (Covered Terrace)			
13:30 - 14:20	Breakout Discussion 4: What are the hazards that threaten Asian megacities?	Breakout Discussion 5: How to effectively visualize natural hazards uncertainty for scientists, policy makers and the public: before, during?	Breakout Discussion 6: Are extreme natural hazard events part of an underlying distribution, or outliers: Are black swans grey?	
14:30 - 15:30		Workshop: Challenges of communicating natural hazards through film	Panel 3: Towards achieving synergies between stochastic, deterministic and heuristic approaches to natural hazards research and response	
15:30 - 16:00	PM Break (Covered Terrace)			
16:00 - 17:10	Poster Viewing Session: Themes A, D, F			
17:10 - 18:00	Plenary Talk 2: "Natural Hazards in the Philippines: Processes, Events, Mitigation and Policy" Mahar LAGMAY UP Resilience Institute and University of the Philippines Diliman			
18:00 - 18:30	Poster Tear-down			
18:00 - 19:30	Dinner (Covered Terrace)			

Thursday 8 February 2018 Taal Vista Hotel Lake Wing (Lobby)				
07:30 - 18:00	Registration (Foyer Outside Ballroom 2)			
Room:	Lily-Santan	Ballroom 3	Ballroom 2	Ballroom 1
08:00 - 08:20				Poster Set-up
08:30 - 10:15	Oral Presentations Theme B: Transient and long-term effects of catastrophic perturbations	Oral Presentations Theme F: Natural hazard communications, warning systems and monitoring programmes	Oral Presentations Theme C: Hazard development under a changing climate	Oral Presentations Theme D: Multi-hazard interactions (cascades)
10:15 - 10:45	AM Break (Covered Terrace)			Poster Set-up
10:45 - 12:30	Oral Presentations Theme B: Transient and long-term effects of catastrophic perturbations	Oral Presentations Theme A: Natural hazards in the megacity	Oral Presentations Theme C: Hazard development under a changing climate	Oral Presentations Theme G: Single Hazard Case Studies
12:30 - 13:30	Lunch (Covered Terrace)			
13:30 - 14:20	Breakout Discussion 7: Nature-based solutions for hazards in megacities: future or failure?	Breakout Discussion 8: Multihazards: Do scientists, hazard managers, and policy makers take into account multi-hazards, and are their methodologies working?	Breakout Discussion 9: Climate Change: Hazard research in the climate change agenda	
14:30 - 15:30		Workshop/Panel: Publishing natural hazards research	Panel 4: Civil defence and geological disasters: the Philippines perspective	
15:30 - 16:00	PM Break (Covered Terrace)			
16:00 - 17:10				Poster Viewing Session: Themes B, C, D, G
17:10 - 18:00	Plenary Talk 3: "Archeological Evidence of Tsunami Destruction along the Northern Coast of Aceh, Sumatra, Centuries before 2004" Kerry SIEH Nanyang Technological University			
18:00 - 18:30				Poster Tear-down
18:00 - 19:30	Dinner (Covered Terrace)			

Plenary Talk 1

Tue- 6 Feb | 17:10 - 18:00 | Lake Wing – Ballroom 3

Chris NEWHALL (*Mirisbiris Garden and Nature Center*)

"Taal Volcano, Natural History and Hazard"

Plenary Talk 2

Wed- 7 Feb | 17:10 - 18:00 | Lake Wing – Ballroom 3

Mahar LAGMAY (*UP Resilience Institute and University of the Philippines Diliman*)

"Natural Hazards in the Philippines: Processes, Events, Mitigation and Policy"

Plenary Talk 3

Thu- 8 Feb | 17:10 - 18:00 | Lake Wing – Ballroom 3

Kerry SIEH (*Nanyang Technological University*)

"Archeological Evidence of Tsunami Destruction along the Northern Coast of Aceh, Sumatra, Centuries before 2004"

Field Trip 1: Taal Volcano Field Trip (Pre-conference)

Mon-5 Feb 2018, USD 65 / SGD 86

Chris NEWHALL 氏他が案内。50 名近い参加者で盛況。

Field Trip 2: Hazards in the Megacity of Manila (Post-conference) Cancelled (Lack of numbers)

Fri-9 Feb 2018, USD 70 / SGD 92

Field Trip 3: Typhoon Haiyan Impacts (Post-conference)

Fri-9 to Sun-11 Feb 2018, USD 450 / SGD 600

Min 10 Pax, Max 20 Pax

実際の参加者は 7-8 名程度だったが挙行。

<参考事項>

- ・6月のAOGS2018 at Hawaiiは5000以上のAbstract提出があって大盛況。
- ・JpGUとのMOUが失効するので、6月のAOGSで再締結が必要（執行部への伝達を依頼される）。



Photo 1. Opening ceremony -1



Photo 2 . Opening ceremony -2



Photo 3 . Opening ceremony -3



Photo 4 . Taal Volcano



Photo 5. Oral session



Photo 6. Breakout discussion

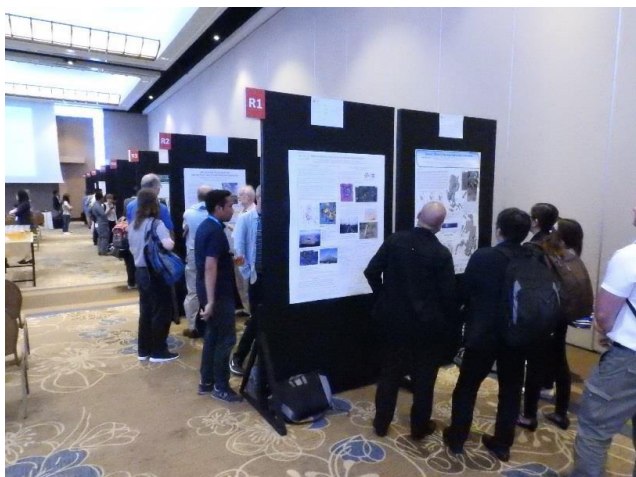


Photo 7. Poster session



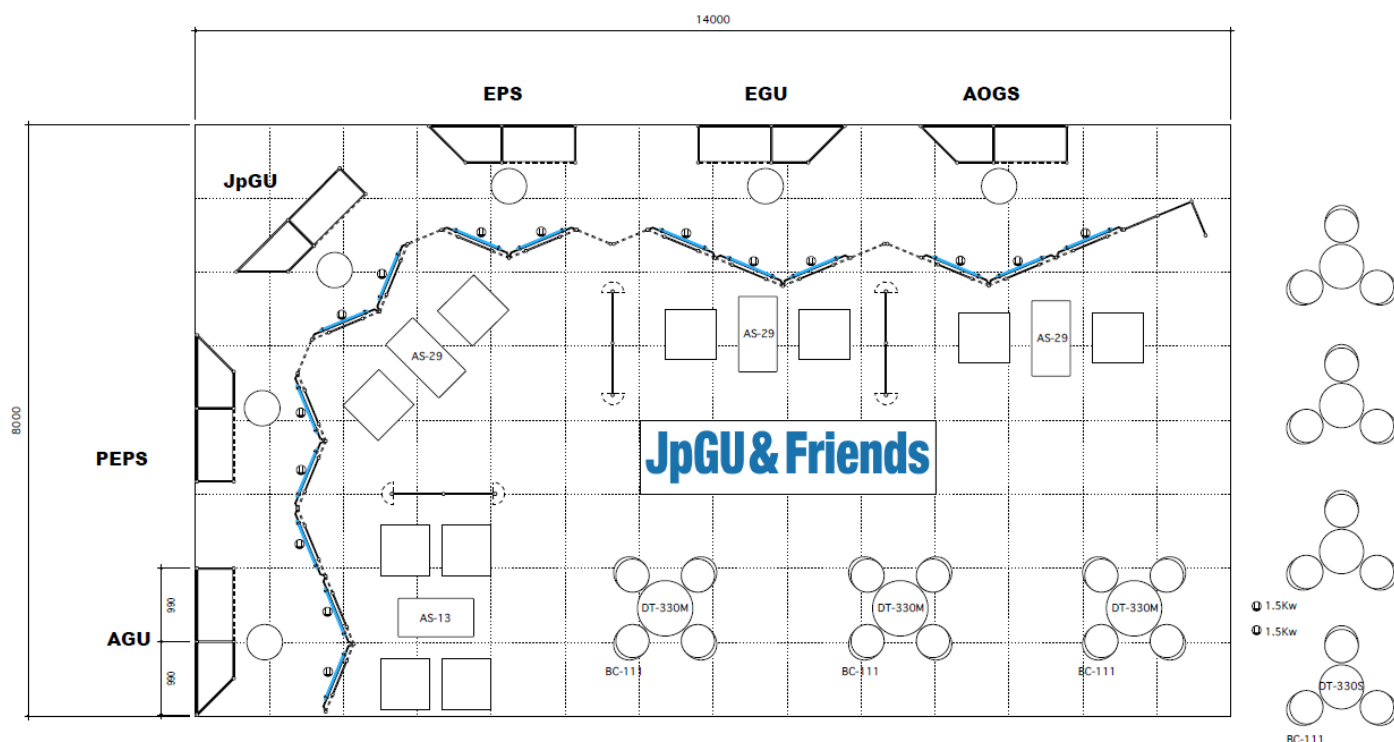
Photo 8. Plenary talk

2-5. JpGU Meeting 2018 国際対応準備状況 JpGU & Friends Area

2016 年より JpGU Meeting にて Partner Union(AGU/AOGS/EGU)との共同出展ブースとして JpGU & Friends Area を設けてきた。

以下次年度のブース案である。

<2018 年大会 JpGU & Friends ブース (案) >



2-6. JpGU Meeting 2018 での AGU/AOGS/EGU との Joint Session について

-資料なし-

2-7. グローバル戦略委員会 新入会メンバーの紹介

-資料なし-

2-8. 学術会議からの報告

Dec 2017

第24期日本学術会議地球惑星科学委員会組織図

